



発行所:自由民主党京都府参議院選挙区第三支部  
〒615-0062 京都市右京区西院坤町2  
ハウスドゥ四糸ビル601  
TEL.075-315-2228 FAX.075-315-2310

発行人:二ノ湯 智

国会事務所  
〒100-8962 東京都千代田区永田町2-1-1  
参議院議員会館921号室  
TEL.03-6550-0921 FAX.03-6551-0921

えとす(Ethos)とは、文化や習慣を意味し、豊かな精神をはぐくみ、平和を希望する言葉です。  
題字: 栢木寛照

# えとす

平成30年 1・2月合併号  
No.301

京都の智恵を日本に活かす。  
二ノ湯智ホームページ <http://www.ninoyusatoshi.com>

## 西脇氏、山田府政の継承発展 福山氏、幅広く府民との共闘



知事選出馬の記者会見をする西脇隆俊氏

### 明日の京都を託す知事選挙

3月22日告示、4月8日投開票の知事選挙に、自民・公明・民進の3党から、知事選に立候補を要請されていた西脇隆俊氏(前復興庁事務次官)は、2月10日、記者会見を行い、京都府知事選挙に出馬する意向を明らかにした。京都府知事選挙は毎回激しい戦いが繰り広げられるが、今回、共産党を中核とする革新陣営の動きは遅かった。ようやく、西脇氏の出馬表明と同じ10日に、弁護士福山和人氏が名乗りを挙げ、2極対決の選挙戦の様相となってきた。西脇氏の基本姿勢は山田府政の継承と発展、一方福山氏は、過去の革新陣営の姿勢とは異なり、幅広く支援の輪を広げていく方針である。それだけに、争点が分かりにくい知事選挙になりそうである。

いずれにしても、少子高齢化が急速に進む地方自治体のかじ取りは非常に難しい。知事選挙まで、2か月足らず、京都府の将来を託すのは、誰がふさわしいか。有権者の賢明な判断を期待したい。

### 恒心

★年末、月刊誌「文芸春秋」の女性編集者から、東京の議員会館に電話が掛かってきた。週刊文春の話題となるようなスキャンダルでも握られているのかと、一瞬ドキッとした。実は女性編集者は西京高校エンタープライジング科出身で、京大卒の経歴の人。私の高校の後輩である。★自分は文春のグラビアを飾る「同級生交歓」を担当しているが、担当期間中に、母校西京高校の先輩で、今なお現役で活躍されている人を紹介したいというのが電話の要件であった。それを聞いて、ほっと一安心した。★月刊文芸春秋のグラビアに「同級生交歓」の人物写真が連載され、好評を博していることは知っている。この企画は60年以上にわたる歴史があり、多くの根強いファンがいる。そこに取り上げてほしいという要望は結構多いようである。若い時、自分もそこに載せてもらえるような人になりたいと思ったこともあった。★編集者の期待に応えようと思ったが、若いといっても私も73才。高校時代の同級生で、現役で働いている人はほとんどいない。西京高校は今でこそ京都有数のエリート進学校であるが、我々の頃は、庶民の出身ばかりの普通の公立高校。世に出て、雑誌で紹介されるような立派になった人があるとは聞いたことがない。★それでも、同じクラスの人が画家になっていると聞いたので、その人の名前を挙げ、連絡してみたらと教えたが、基準に合わないのか、いまだに編集者からは返事がない。同じ高校で、それなりに活躍している人を探すのはいかに難しい仕事であるかが分かった。よくぞ長期間、「同級生交歓」を続ける事が出来たと感心するばかりである。若い後輩の企画は、どうやら幻に終わりそうである。

西脇氏に決定までの選考経過

慎重に、丁寧に候補者を絞り込む

昨年12月6日の山田知事の退陣表明を受けて、次期知事候補の選考を巡って、自民党府議団でも協議を重ねてきた。一方、自民党京都府連でも二ノ湯会長、公明党の竹内京都府代表、民進党京都府連の安井会長と政党間協議を開始、今後の進め方について協議を開始した。二ノ湯会長を政党間協議の座長にすることをきめた。2回目から、自民党は菅谷幹事長、公明党は谷口幹事長、民進党は北岡会長代行が出席し、今後は6人で協議を続けることにした。協議では、まず、3党が中心となって、今後候補者を選考することを申し合わせた。そして、事務所

の選定、決起大会の日の決定、場所の確保を急ぐ必要があるとして、自民党がその折衝に当たる事になった。さらに、3月22日の告示の知事選挙に合わせる為には、出来るだけ早く候補者を決定し、出来れば1月中旬が望ましいと言うことで3党が合意した。2回目の協議から、京都府知事にはどういう人が望ましいかと思見を出し合った。多くの期待される知事像に関する意見が出されたが、おおむね次のように集約されてきた。①人格、識見ともにすぐれ、京都府知事にふさわしい人、②京都のことを熟知した人、③出来れば京都府出身の人が望ましい、④中央とのパイプを持ち、大局的に仕事が出来人、国際感覚を持った人、⑤色々な分野からの人を対象に選考した方がいい、⑥山田府政の継承・発展が出来る人、⑦多様性を認め、共生社会の実現が出来る人、⑧一党、一派に偏しない人、⑨府市(京都市)協調出来る人、⑩即戦力として活動出来る人などの知事像が出された。一方、知事選の確認団体である「活力京都」の幹事団体の方にも、選考経過を説明するとともに、知事候補の選定について意見を求めた。政党間協議で出された意見と余り大差がなかった。3回目以降の協議の場で、各政党から具体的に個人名が出てきた。いずれの候補者も甲乙つけがたい、立派な人たちがばかりであった。個人名を挙げての議論なので外部への情報漏洩には特に気を配った。そして議論を積み重ね、それぞれの意向も確認しながら、候補者を絞り込んでいった。選考経過中、1月19日の京都新聞朝刊に、知事選に自公民で西脇氏を擁立方針の記事が出た。その時点では、西脇氏からまだ正式に返事をもらっていないかった。その後、西脇氏から、自民、公明、民進3党の支援、山田知事の支持が得られることを前提に、知事選出馬を承諾する旨の回答をもらった。それを承けて、西脇氏に直ちに京都に来てもらい、確認団体の立石会長、山田知事、門川市長、そして民進、公明の府市会議員と懇談の場を設けたところ、西脇氏の人柄、識見を高く評価してもらい、西脇氏擁立に異存がないことを確認し合った。

にしわき隆俊氏を励ます

# 活力京都総決起大会

山田府政の継承と発展

## にしわき隆俊

~安心 いきいき 京都力~

日時：2018年3月3日(土) 午前11時~

場所：京都市勤業館「みやこめっせ」3階第3展示場

京都府知事選挙 自民、公明、民進西脇氏を推薦

自民、公明、民進の各政党の京都府支部は、西脇隆俊氏を知事候補者として擁立を決定、本部へ推薦を上申した。自民党は2月6日、公明党は9日に決定、民



自民党本部で二階幹事長から激励を受ける

進党は今月末の常任委員会で決定することになっている。これで各政党が足並みを揃え、選挙へ向けての共闘態勢が整った。2月9日、西脇氏は二ノ湯府連会長と自民党本部を訪問、二階幹事長、塩谷選対委員長と面談、両氏から激励を受けた。さらに、公明党の山口代表、民進党の大塚代表にも挨拶をした。

〈活力ある京都をつくる会〉

新事務所(選挙事務所予定地)

〒600-8107  
京都市下京区五条室町西北角  
クマガイ五条ビル

代表 075-744-6823  
FAX 075-744-6843

経歴

昭和54年3月 東京大学法学部 卒業  
平成25年2月 国土交通省総合政策局長  
平成28年6月 復興庁事務次官



### 野中先生を偲ぶ 京都府政の 生き字引的存在



平成11年6月24日、首相官邸の内閣官房長官室で、全国市議会議長会会長として、分権時代に即した地方税確保に関して要望した。

野中先生が92才で亡くなった。2か月前、山田知事の後援会総会に元氣に姿を見せ、その後ホテルで食事をされた後、急に体調を崩され、病院に搬送されたが、意識が戻らぬまま帰らぬ人となった。私が野中先生存在を知ったのは、昭和45年の知事選挙の時であった。確か、園部町での柴田候補の個人演説会であった。その時、なんと話の上手い議員がいるものだという印象を持った。しかし、当時、私は前尾先生の応援に走り回っていた。野中先生は船井郡・北桑田郡選出の府会議員の為、地盤の関係で谷垣専一先生を

応援されていた。そのため、私は野中先生と親しく話をする機会がなかった。いやむしろ、虎視眈々と前尾先生の後継を伺っているという噂があり、野中先生を警戒していた。昭和56年7月、前尾先生が亡くなられた。後を追うように谷垣先生が、昭和58年6月に逝去された。京都2区は2名が欠員となったために、補欠選挙が行われることになった。その当時の共産党の勢力からすれば、1議席は共産党の指定席の感じであった。自民党は、失われた自民党の2人の議席を死守すべく、公認候補2人の擁立を決定した。野中広務、谷垣禎一の両氏である。谷垣先生は2区全体に谷垣会が存在し、選挙体制は整っている。一方、野中先生は、敏腕副知事として、知る人は知るの存在ではあったが、広い2区では組織もなく、ましてや京都市内ではほとんど知名度がなかった。府会議員、京都市会議員で野中先生を応援する人は、多かったが、選挙を采配し、全体をわかる人がいなかった。野中先生と非常に親しい私の友人から、是非野中陣営に参加して、後援会連合会の事務局長になって、選挙を仕切ってほしいと懇願された。その時、私の先輩である林長禎前京都市会議長が出馬の準備を進めていたためにためらっていた。林さんは公認が得られなかった。林さんには申し訳なかったが、党員

である私は無所属候補を応援することが出来ない。私は野中選挙事務所の仕事局長を引き受けた。補欠選挙は季節も夏の真つ盛り、しかも自民の公認候補の生き残りをかけた猛烈な選挙であった。野中陣営には竹下登氏、谷垣陣営には加藤紘一氏がいて、田中派と宏池会の派閥戦争でもあった。選挙の結果は、自民の票が野中、谷垣両氏にうまく分かれて、2人とも当選した。野中先生は、58才での初当選ではあったが、その後、当選を7回重ねられて、官房長官、党幹事長を務められた。町会議員から与党の幹事長まで、上り詰められた政治家としての力量には、頭の下がる思いである。当選3回ぐらいまでは、よく一緒に選挙区を回った。それぞれの地域の事情に詳しく、まさに京都府下の自治体を知り尽くした政治家であった。今、そんな政治家は存在しない。補欠選挙を戦った谷垣先生は怪我が原因で政界を引退、野中先生は幽明境を異にされた。寂しい限りである。京都の自民党も世代交代の時期を迎えている。野中先生のご冥福をお祈りするとともに、弱者に目配りをし、地方の痛み、苦しみに手を差し伸べる政治家を心がけたい。

参議院議員 二之湯 智

### 府会補欠選候補者決定 伏見瀧脇氏、福知山家元氏

伏見区、福知山市では府会補欠選挙が知事選挙と同時に執行される。自民党伏見区、福知山支部では、候補者の選考を急いでいたが、伏見区は瀧脇正明氏(41)、福知山市は家元優氏(62)を決定した。京都府連は2月10日の選挙対策委員会で、両名を公認候補として承認した。



福知山市  
家元 優氏



伏見区  
瀧脇正明氏

### 「新政経懇話会」入会のお願い

「新政経懇話会」では、機関紙「えとす」の発行をはじめ、二ノ湯さとしの政治活動をご支援いただける会員を募集しております。是非、二ノ湯さとしの政治理念と主張にご賛同いただき、ご入会下さいますようお願い申し上げます。

新政経懇話会

年会費 1口1万円

入会申込・お問い合わせ先

二ノ湯さとし事務所 ☎075-315-2228

## 第7回日中議員会議

日本と中国との国会議員による国際会議が、毎年開催されている。開催地は交互に代わり、今年では日本で開かれた。二ノ湯議員は、参議院からの代表の一人に選ばれた。会議はそれぞれの分野に分かれており、二ノ湯議員は、姉妹都市、観光、人物交流について発言した。限られた時間の中での発言であり、多くのことを述べることは出来なかった。二ノ湯議員の当日の発言の要旨は次の通り。

### ○信頼醸成の為にいくつかの手段

現在、日中両国間の国民感情は決して良くないのは事実であります。日中が良好な関係を築くことは、アジア、世界の安定、平和にとって極めて重要であります。日中の国民が相手を知り、互いの文化の違いを知るために、あらゆるレベル、分野での交流を活発化させ、国民間の信頼を育むための地道な努力を継続することが重要であります。友好親善をいっそう促進させる手段として、地域間



会場となった参議院特別会議室で  
日中両国の国会議員代表団

交流・姉妹都市連携、観光の促進、人物交流の拡大などが効果的です。人と人との交流を拡大することが、相互理解を深める上で大事なことだと思います。

### ①地域間交流・姉妹都市提携

姉妹都市交流事業は、市民1人ひとりが主体となって参加できる機会が多く、両国の人的交流の中核の1つであります。市民間の草の根の交流こそが友好関係の基礎であると認識しています。一般市民が参加できる交流を促進するべきです。

### ②観光交流の拡大

日本に多くの観光客が訪れています。中国からの観光客の評判は今一つです。大きな声で話をする、ルールやマナーを守らない。中国、中国人の評価を下げています。それはどの国も辿る道であり、いつの日か、正常化されて行くでしょう。それにもまして、中国の人が、我が国を訪問し、実際の日本を見て、日本を知ってもらうことは重要であります。もちろん中国を訪問する日本人を増やすことも重要です。今後、日中間の双方向の観光交流を一層促進し、お互いの国をよく知る必要があると考えます。

### ③青年交流の重要性

これからの世代を担う若手の交流が重要だと思います。1984年、当時の胡耀邦書記のイニシアティブにより、3,000名の日本人青年が中国を訪問し、大きなセンセーションを巻き起こしました。一方、当時の中曽根総理は、中国側のこの招待に応じて翌年500名の中国人の若者を招待しま

した。当時、中国で最も有名な歌手で、現在は習近平国家主席の奥様である彭麗媛さんも訪日されました。その後、2007年に中曽根元総理が訪中し、当時、上海市共産党委員会書記であった習近平現国家主席主催の晩餐会に出席した際、習近平氏は、中曽根元総理に対し中日友好500名の一員として訪日した奥様のエピソード

をお話しされたと聞いております。このような未来につながる青年間の交流の枠組みを一層拡大していくことが必要であります。私はかつて、ボランティアとして日米高校生交換プログラム事業をやっていました。日本の高校生が1年間アメリカの家庭に入り、高校に行つて勉強する。アメリカの高校生も日本の家庭に泊まって、高校に通学する。頭が柔軟で、異文化を受け入れやすい若い時に、留学することは非常に意義があり、日中間でもそんな交換事業ができればと考えております。先日、京都府日中友好協会の新年会があり、駐大阪総領事館の李総領事と、若い人たちの交流事業の重要性について、意見交換をいたしました。先ず、地元京都から、ぜひ、実現したいと思っております。

## 身辺雑記

一、揺れ動く大相撲。暴力を振るつた日馬富士は、略式起訴で50万の罰金。退職金数億円で引退。殴られた貴ノ岩は十両に降格。そそのかした白鵬はおとがめな

し。その場にいた鶴亀も処分なし。何やら良くわからない大相撲の世界である。

一、韓国で開催される平昌五輪に、北朝鮮チームが参加した。選手は男女合わせて5種目22名、その上美女応援団が大挙押しかけた。果たして北朝鮮の意図はどこにあるのか。この国のやることはさっぱり分からない。

一、今、国政で働き方改革が大きな問題となっている。電通、NHKの職員の過労死からわかに注目された。強制的な長時間労働は許せないが、人一倍働いて、お金を稼ぎたい人の意欲まで、法律で縛ることがいいことかどうか。

一、新年早々注目されていた沖縄県の名護市長選挙は、新人の渡具知氏が現職の稲嶺氏に345票の差をつけて当選した。当日のテレビでは現職有利の情報を流していたために、また負けたのかと思つていたら、開けて見れば大差であった。

一、今年の冬は猛烈に寒い。夜、散歩するのをためらうほどである。夜中もストーブなしでは、眠れないほど、寒さが身にしみる。そのためか、全国各地で、ストーブによる火災が発生、多くの犠牲者が出ている。

一、春の選抜野球に滋賀県から3校、その内、膳所、彦根東は有数の進学校。京都は乙訓高校のみ。昔、滋賀はなかなか甲子園に出られなかった。京都には、私立で野球の名門校が多い。京滋とも公立が頑張つて、私立はどうなつていいのか。